

屋敷地を区画する溝群（東側）

屋敷地を区画する溝は、当初素掘りの溝が掘られていた。そして時代が新しくなると、瓦を組んだ溝に変化し、最後には、瓦組の溝の中に土管を通して、暗渠になるなど、屋敷を区画する施設は、時代ごとに変化していることが分かった。

区画施設



京極家と多度津藩の家紋瓦が出土した遺構

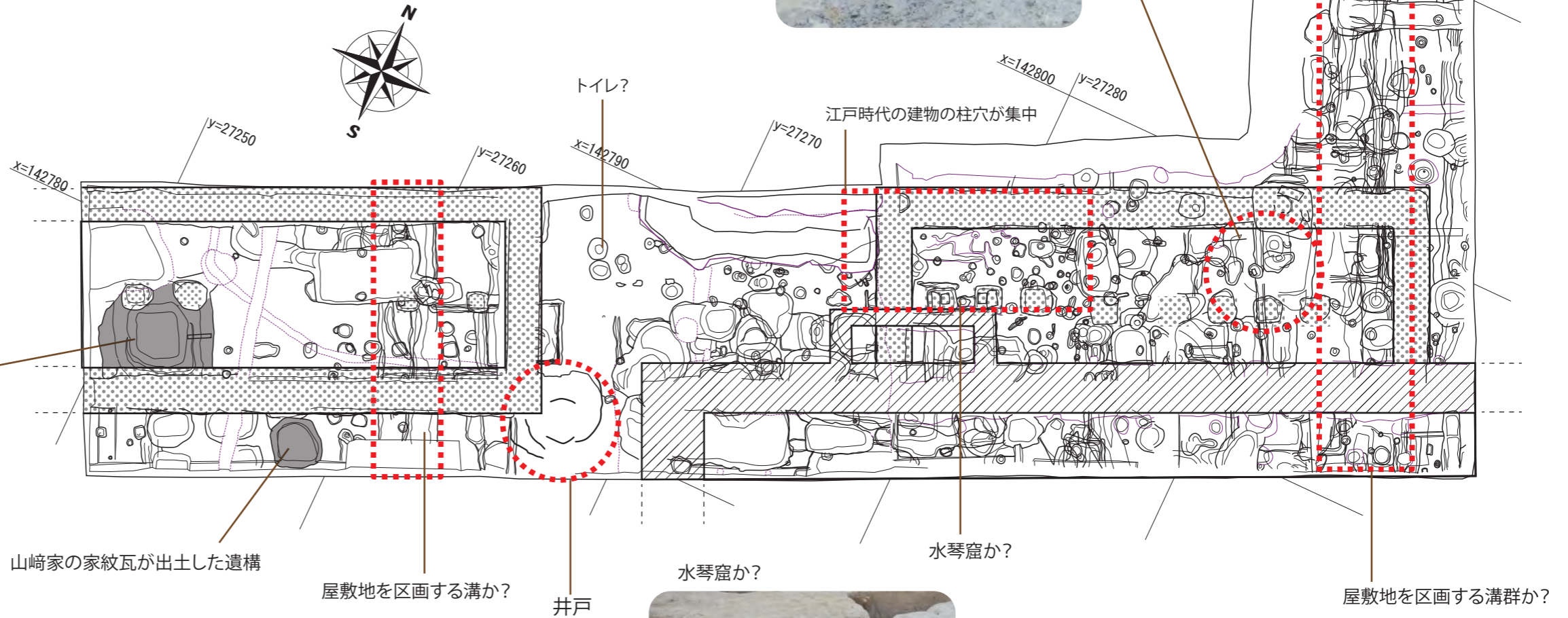
: 連隊建物基礎の範囲



この18世紀後半の井戸は、一辺3m程度の方形で、壁面には特段の造作はされず、素掘りである。底面の中央には湧桶として、底部を打ち欠いた土師質土器の甕が設置されている。



井戸



水琴窟

庭園にみられる音響装置。甕の底部に孔があり、それを逆さまにして、地中に埋める。埋めた上部には玉砂利などを敷き詰め、ゆっくりと甕内部に水を落とし、落下した滴の反響で金属音に近い音を奏でる装置である。



山崎家家紋瓦 (扇紋)



京極家家紋瓦 (隅立四ツ目紋)



京極家家紋瓦 (平四ツ目紋)

丸亀城 略年表

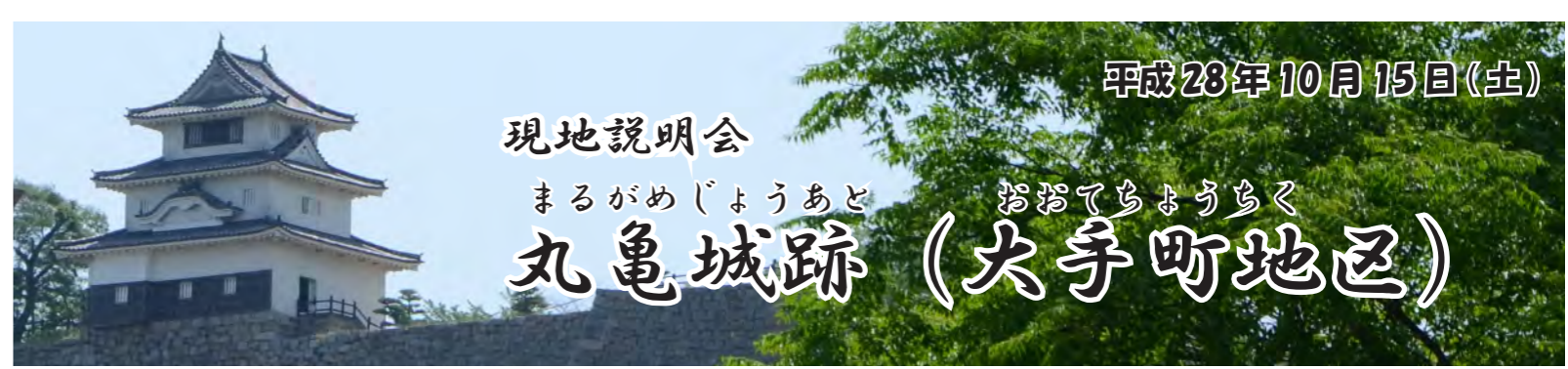
慶長2年(1596)	生駒親正 亀山に城を築く
元和元年(1615)	一国一城令により、丸亀城廃城
寛永17年(1640)	生駒高俊改易
寛永18年(1641)	山崎家治入封
寛永20年(1643)	山崎家治 丸亀城の再築に着手
明暦3年(1657)	山崎家絶家 大洲藩主加藤氏が丸亀勤番
万治元年(1658)	京極高和入封
元禄7年(1694)	京極高通に1万石を分知し、多度津藩誕生
文政10年(1827)	多度津に陣屋が完成
明治8年(1875)	陸軍歩兵12連隊施設建設

現地説明会

まるがめじょうあと

おおてちょうちく

丸亀城跡 (大手町地区)



・ 調査の契機と遺跡の位置

香川県埋蔵文化財センターは、高松家庭裁判所丸亀支部建設にともない、丸亀城跡（大手町地区）の発掘調査を行っています。

現在の丸亀市の中心部は、江戸時代の城下町から続く街です。城の周囲には、武士や町人の屋敷などが建てられていましたが、城の北側は、城の正門である大手門に面しているため、江戸時代には、丸亀藩の中でも有力家臣の屋敷地が立ち並んでいたようです。

今回調査を行った所も、江戸時代の屋敷の並びを描いた絵図をみると、丸亀藩家臣の中でも、石高の高い家老たちが住んでいた屋敷の集中する地点となっています。

香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町南谷 5001-4
TEL 0877-48-2191 FAX 0877-48-3249
メール maibun@pref.kagawa.lg.jp

遺跡名：丸亀城跡（大手町地区）
場所：丸亀市大手町3丁目
遺跡内容：江戸時代の城下町、近代の連隊建物

・ 調査の成果

丸亀城跡（大手町地区）の調査では、主要な成果が2つ挙げられます。

①帝国陸軍歩兵第12連隊の建物の痕跡の発見

明治8（1875）年に丸亀城の北側と東側を中心とする一帯は、帝国陸軍によって土地の買収がされ、連隊の建物や練兵場が造られました。また、12連隊の文書記録によると、一度連隊の建物が大改修されたことが記録されています。

今回の調査でも、建物が複数重なった状態でみつきり、記録の通りの結果が発掘調査により確認できました。

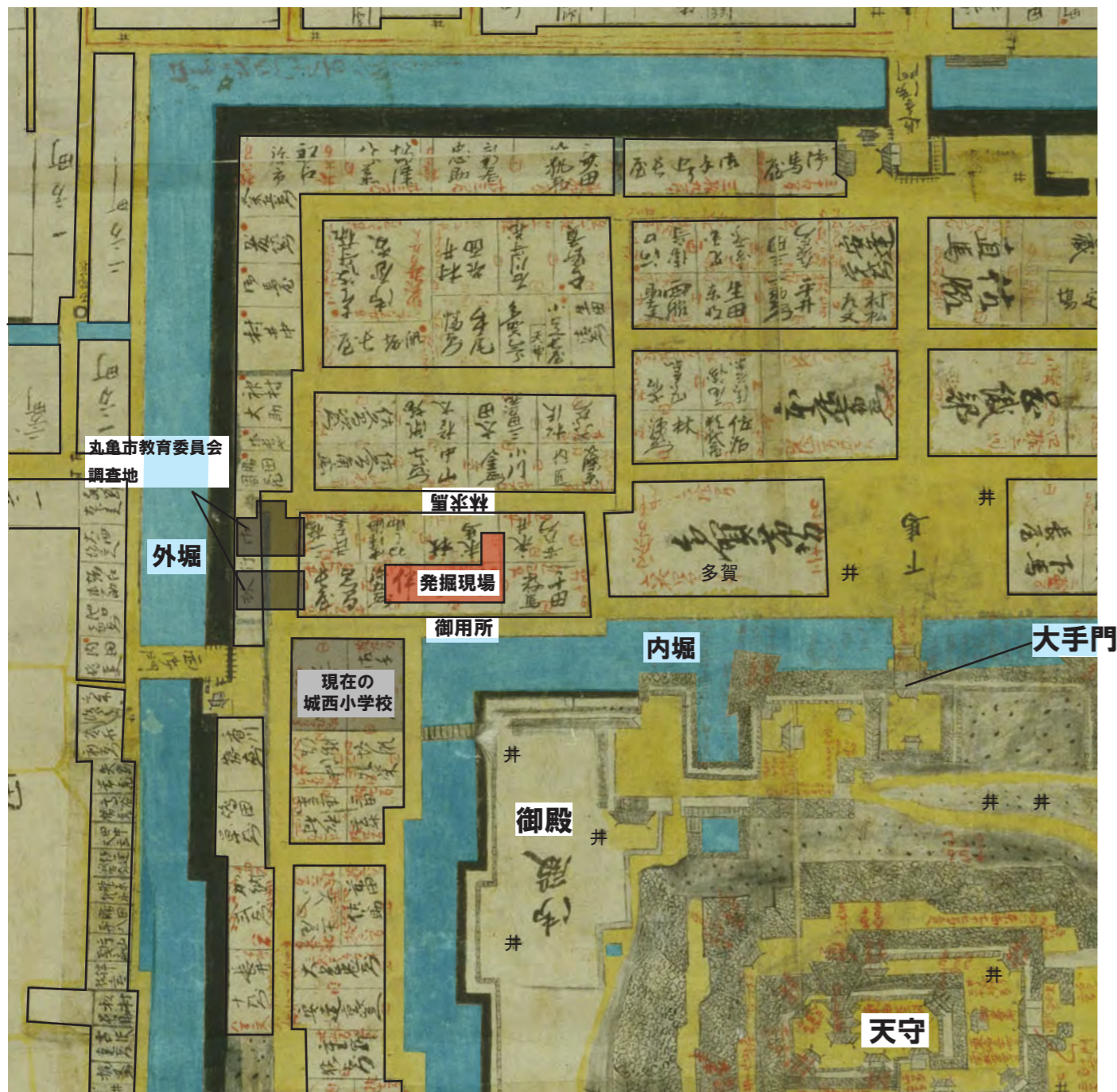
②丸亀城下町の武家屋敷の構造の一部が判明

丸亀城の城下町の形成は、慶長2年（1596年）に生駒氏によって、亀山の上に城が造られたことから始まります。しかし江戸幕府により出された一国一城令により、讃岐の城は高松城のみとされ、丸亀城は廃城となります。

その後、1641年に山崎氏が丸亀藩を治めることとなり、1643年から城の再築に取り組みます。

山崎氏御家断絶の後には、京極家が丸亀藩主となり、引き続き丸亀城と城下町の整備を行います。今回の調査において、生駒氏・山崎氏の時代のものと考えられる遺構（地下に残される活動の痕跡）は確認されませんでした。山崎家の家紋が描かれた瓦が出土しました。

京極家が丸亀城下町を整備した後は、屋敷を区画する溝や、屋敷内の建物の跡、水ガメや便所・井戸などの生活に必要な施設の跡が見つっています。しかし、それらの多くは、18世紀後半～19世紀前半に掘られたと考えられる多量のゴミ捨て穴によって壊されてしまい、実態が分からない部分も多くあります。



「享和二年丸亀城郭及び城下町古地図」（1802年作成）丸亀市立資料館蔵の一部に加筆